

母性看護学実習

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族を対象に、その身体的・心理社会的特性をとらえながら、各期における健康を保持・増進するための具体的な看護のあり方について体験的に学修する。また、各学生が立案した看護過程を共有し、広く母性看護の役割について考察する。具体的には、受け持ち事例に対する看護過程の展開を通し、基本的なアセスメントの視点を習得する。また、立案した看護計画を実施・評価しながら、必要な看護援助について実践的に学ぶ。そしてカンファレンスを通じ、各自の学びを共有する。

・教育成果（アウトカム）

妊娠期・分娩期・産褥期、および新生児期に対する健康の保持増進と疾病を予防する看護援助方法の実施に向け、個々の対象者の健康状態を観察やコミュニケーションなど対象者との相互作用を通して把握することができるようになる。また、収集した情報をもとに個々の対象者の状態に応じた看護援助方法を選択、実施することができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7

・到達目標（SBO）

1. 妊婦・産婦・褥婦、および新生児の健康状態を適切に観察することができる。
2. 個々の健康状態に応じた健康の保持増進、疾病の予防にむけた看護援助方法を選択することができる。
3. 個々の対象にあった基本的な看護援助方法を適切な手順や留意点をふまえて、実施することができる。
4. 実施した結果を対象者の状況から適切に評価し、以降の計画に反映させることができる。
5. 妊娠期・分娩期・産褥期、および新生児期における看護の役割を述べるることができる。

・授業日程

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。			成育看護学講座	蛎崎 奈津子 教授 遊田 由希子 講師 西里 真澄 講師 高橋 淳美 助教	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における健康状態の観察と看護援助の実施 2. 分娩期における健康状態の観察と看護援助の実施 3. 産褥期における健康状態の観察と看護援助の実施(看護過程の展開) 4. 新生児期における健康状態の観察と看護援助の実施(看護過程の展開) 5. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期における看護の役割についてのディスカッション <p>到達目標は、前頁記載の通り</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 第13版	森恵美、他著	医学書院	2016
教	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 第13版	森恵美、他著	医学書院	2016
教	ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 第4版	荒木 奈緒、他著	メディカ出版	2019

・成績評価方法

実習記録 60%、実習態度 40%にて評価する（詳細は実習要項に記載）。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

妊娠期・分娩期・産褥期、および新生児期の健康状態を把握するための観察項目、基本的な看護援助方法について、教科書や配布資料、ノート等で十分な復習を行った上で実習の臨むこと。実習終了後は、その日の振り返りと翌日の自身の課題を明確にすること。これらの事前事後学修は、最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

提出された記録物等については、適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：臨地実習 助産学実習

看護師（別表 3）：臨地実習 専門分野Ⅱ 母性看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			